

女性に多い肝疾患

自己免疫性肝炎とは

今月も女性に多い肝疾患のお話をします。

皆さん、関節リウマチという疾患をご存知の方は多いですよ

ね。この疾患は、自身の骨（特に手指）を自分自身の免疫力で破壊する病気です。今月号でお話する自己免疫性肝炎は、肝

臓を構成している肝細胞を、自己の免疫システムで異物（抗原）とみなし、抗体を作って攻撃する病気です。

自己免疫性肝炎は中高年女性に好発し、慢性的に肝障害をきたします。無症状のため、検診などによって偶然発見される場合が多いのですが、進行すると黄疸や全身の倦怠感、発熱、関節痛、発疹といった症状を起します。

自己免疫性肝炎患者は、血液検査においてAST、ALT（肝臓の炎症の指標となる酵素）の数値が上昇することに加え、抗体としての働きを持つ免疫グロブリンの一種・IgGの値が上昇し、抗核抗体という自己抗体が出現することが特徴です。

治療においては、炎症と免疫を抑制する副腎皮質ステロイドが極めて有効です。予後は良好ですが、長期にわたり少量のステロイドを服用していかなければなりません。

放置は危険 検診の値を見て

自己免疫性肝炎を放置すると、肝硬変へと移行するので注意が必要です。また、3人に1人の割合で、慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群、橋本病などの自己免疫性疾患と合併します。先月号でお話した、原発性胆汁性胆管炎の病態を併せ持つ場合もあります。

中高年女性の方で、検診におけるAST、ALTなどの値が高い人は、この疾患を除外する

ためにもぜひ専門医を受診してください。
次号は男性に多い肝疾患についてお話しします。

自己免疫性肝炎の特徴

症状

- 黄疸
- 発熱、関節痛、皮疹
- 他の自己免疫性疾患と合併

➡副腎皮質ステロイドが有効

血液検査値

- AST、ALT上昇
- IgG上昇
- 抗核抗体陽性（+）



肝心かなめの 肝臓 のはなし

18

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉